

五重のすすめ

五重相伝に参加する意義

「浄土宗はよろしいですね。五重相伝というのがあって、あれに参加された人は、必ずお念佛の熱心な信者さんになるそうですね。私達の方には、その様なことがないので、残念です。」と他宗派の方々がよく言います。五重相伝会は私達の先輩が、遠い昔から残してくれた、伝統のある大変有難い行事です。これに参加することによって、自らの心の中に浄土宗の信徒であるという、堅い信念を持ち、この世・後の世をかけて、正しい人間の道を歩み、最高の幸せを得ることができるようになるのです。いろいろなご縁で五重相伝会に参加されると思いますが、いずれにしても、五重相伝が終わった時に、「参加させていただいてよかった。有難かった。この様なことならもう少し長い長くていいですね。」と多くの方がいようになります。

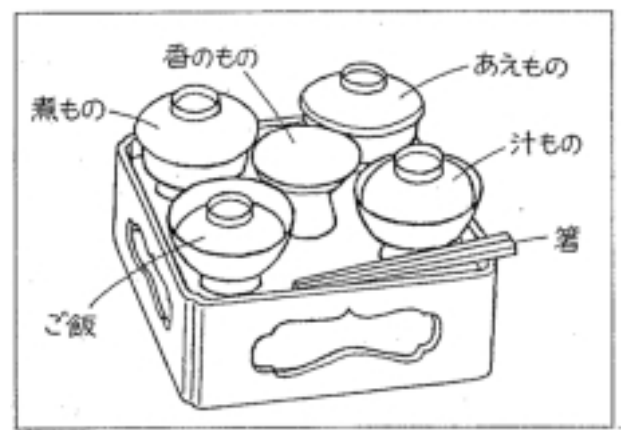
信仰は、本を読んだり、自分一人で修行をしたりではなかなか身につくものではありません。特別な道場で心を同じくする人たちと共に、お経を読んだり、念佛をしたり、法話を聞いたりすることによって、自然に正しい信仰が身についてくるようになるのです。

水を掬すれば月手に在り

花を弄すれば香り衣に満つ

両手で掬ったわずかな水の中にも月の光は宿ってくれるように、私たちの小さな心、僅かな信仰心の中にも、み佛のみ光は必ず宿って下さいます。花を愛する人には、その花の香りが自然に身に移ってきます。たとえ数日間であっても、信仰の道場に身をおくことによって、必ず佛のみ心を心の中に感じ得るようになるのです。そしてその数日間が、私たちの人生の中で大きい転換期となる、重大な意味を持つ日となるのです。

篤く三宝を敬え 三宝とは
 仏、法、僧なり
 仏.....いのちの親
 法.....不可思議な力
 僧.....仲間達

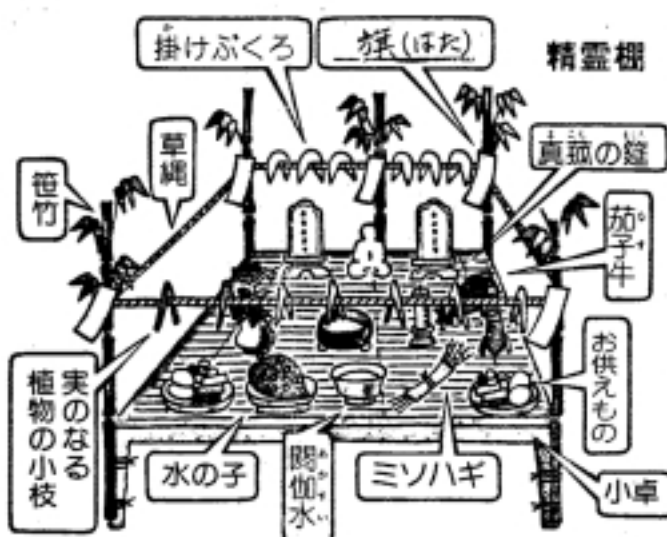


お霊膳

先祖様の命日や年回忌の法要の際
 お霊膳をお供えします。
 お箸を佛様の方に向けます。

精霊棚

精霊棚はお盆の間、ご先祖様があられるところ。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。普通はそこまでなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。



略式棚

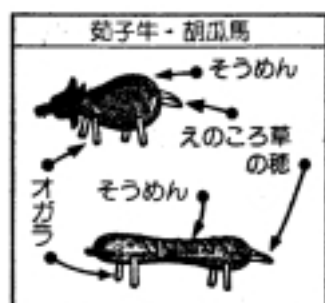


お盆に祭られる精霊棚(しょうりょうだな)は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。期間中の供養はここでいきます。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

新盆の家では、1日ごろから作ることもあります。以上ごく一般的と思われることを説明しました。

精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子(茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる)と関伽水(どんぶりに入れた供養の水)、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

お参りの仕方
 お参りする人は、ミソギハの束の先をどんぶりの関伽水に浸け、水の子にふりかけてから(洒水)、拝むようにします。ミソギハは他のもので代用できます。



五重相伝会を行います。

無量寺では、来年、平成16年4月20日(火)より24日(土)までの5日間行います。参加者を募集致します。応募していただける方は、年齢や性別は問いませんが、5日間出席できる方です。一生に一度あるかないかのこの機会に、是非参加してくださいませよう御案内致します。案内書、申込書を同封しています。

初盆を迎えられるお宅へ

7月15日の大施餓鬼法要では今年初盆を迎えられる御霊の特別回向を行います。

志されるお宅の方は前もって申し込みして頂きますようお願いいたします。

当日、回向、焼香の後、塔婆をお渡ししますので、お家に持ち帰って頂き、初盆の精霊棚に祭って御霊をお迎え下さい。

お盆が済みましたら、お寺へお持ちになって下さい。お寺でお炊き上げします。

(以前は精霊船に乗せて流したものです。)



戒名について

仏教には通常守るべき戒律があります。戒とは倫理的な目標、律とは生活上の規則です。仏教に帰依する（出家したり、僧侶の弟子になったり、仏様を信仰したりすること）ときには仏教の多くの宗派（除；浄土真宗）では戒を守ることを約束します。これを授戒と言います。授戒しますとその証拠に名前がもらえます、これが戒名です。したがって、生きていた間に戒名を授かるのが本来の主旨です。

仏教の基本的な戒は5つあります。

1. 不殺生戒（殺さない）
2. 不偷盗戒（盗まない）
3. 不邪淫戒（淫らなことをしない）
4. 不妄語戒（嘘をつかない）
5. 不飲酒戒（酒を飲まない）

我々の日常生活を考えてみますとこれらの戒を厳密に守ることは極めて困難なことでしょう。戒とは罰則のない倫理規定ですから、守れなくとも常に意識し守ろうとする姿勢を持ち続けることが重要です。「私は戒を意識し常に守ろうとする姿勢を持ち続けます。」と仏様と約束した象徴として戒名があるのです。

生前戒名

浄土宗では生前での戒名授与を勧めています。

浄土宗では、「五重相伝会」という修養会で浄土宗の教義について勉強すると、「誉」という法名の一部（誉号）を授かります。また、「授戒会」という会で戒を守ると約束すると「」という2文字の戒を受けたことを示す名前（戒名）を授かります。

したがって「」というのが浄土宗の檀信徒の戒名になり、これらは原則として「生きていた間」に授かるべきものです。

しかし、浄土宗の戒名にはこれ以外に院号「院」、位号「信士、信女、居士、大姉」が付け加わり法名となっており、これらは死後にあたえられるのが大部分です。

この院号や位号は、仏教の篤信者で社会的に活動し、寺院に対する功績を表すものです。たとえば、冷智院というのは、無量寺の院号です。つまり院というのは寺院を表します。

昔、天皇や将軍、高い位の貴族や武士は自分の寺を建てそこに住み、死後もそこに葬られました。ですから「院」とは一寺院を建立する功績に大して与えられる称号でした。現在では、寺院に対する功績によって与えられます。

だるまを学んで、ダルマサンポイント



無量寺でおこなわれる行事、イベントや清掃などをお手伝いくださった方にはダルマサンポイントをお渡し致します。

お戒名をつけるときに特に問題を感じますことは、その方のお戒名をつけるときに既に私が先に他界していた場合です。

住職が代わるとその方がどれだけ篤信されてあったのかもわからず、受戒が五重相伝を受けていっしやらなかった場合には、戒名をつける折に最適な戒名をつけるのが困難になります。その方の人生をしっかりとらえた名を名づけることができないというのでは申し訳がないことです。

これは、住職にとって非常に心残りになることです。

そこで、できるだけ客観的に見る方法がないものかと日々考えておりました。その結果ダルマサンポイント方式を取り入れることにしました。これで皆様の努力を仏様のみがご存知というのではなく、導師を勤める住職のみならず、他の住職にもわかりやすくなります。つねづねいろいろと無量寺のお手伝いを下さったり、仏法を学ばれるみなさまに少しでもむくいるためにダルマサンポイントをお渡しいたします。それをお戒名をつけるときにお渡しいただければ、それを基にしたお戒名をつけさせていただきます。私が万が一のときも安心です、住職はかなり元気ですが、諸行無常の真理は避けることができません。

いろいろな催しものがありますのでみなさま積極的に無量寺においでください。

無量寺の檀信徒の方にはどなたにも、必ずお戒名を贈ります。遠隔地に居住されていて、寺の行事に参加するのが、むづかしい方でも、ご自宅などで、念佛を称えている、またお写経をしている。という方もお寺へご連絡下さい。

ダルマサンポイント（お札）を差し上げます。合掌



筑後西国三十三ヶ所十八番札所
聖観世音菩薩



おのづから
こころただしく
なりにけり



二百三十余年前、久留米藩第七代藩主有馬頼徳公によって創立された「郡中三十三所観音札所」その観音様を巡る道は「筑後三十三所観音霊場」として、今でも多くの人たちの信仰を集めています。



よきえにしにて
寺をめぐれば



お知らせ

掲示板ができました。



本堂前の池の金魚、元気です。

駐車場の入り口が変わります。

不法駐車が絶えませんので、やむなく従来の入り口を日常は施設することになりました。車庫の方よりお入り下さい。

